



今回は、香川県で森づくりと環境保全活動に取り組む「NPO法人フォレストアスターズかがわ」の事務局長・増田孝夫さんにお話を伺いました。



琴南の森で間伐を行う増田さん



NPO法人 フォレストアスターズかがわ事務局長
増田 孝夫さん

「森は未来からの預かりもの」 森林を未来につなげるために できることからコツコツと

こは、日本一小さな県・香川
県の南西部に位置する仲多度
郡まんのう町。琴平山(通称、金比羅
山)からほど近い場所にある、県有林
「琴南の森」で森を育む活動を行って
いるのが「NPO法人フォレストア
スターズかがわ」だ。鋭い傾斜をずんずん登っ
ていくエネルギーギッシュな集団の中に、
団体の事務局長を務める増田孝夫さん
がいる。「私たちのモットーは安全に
楽しく活動すること」と柔らかな笑顔
で話す増田さんも、やはりいきいきし
ている。

この団体は、以前、香川県が実施し
ていた森づくり活動のリーダーを育成
する「フォレストアスターズスクール」の受講
生有志で、平成17年8月に任意団体と
して設立した。その7年後、NPO法
人に移行し、森林づくりと環境教育活
動の二本立てで活動している。森林づ
くりは、「琴南の森」で下刈りや枝打ち、
間伐などの保全整備を行うほか、不定
期で他団体と協働して森林事業を行う
こともある。一方、環境教育活動は、

保育園や幼稚園で子供たちに木の育ち
方や森の役割と大切さを伝える「里山ふ
れあいプロジェクト」をはじめ、「琴南
の森」で木とふれあうファミリー対象
の森林体験イベント「みどりの学校」な
ど、言葉と体験の両面から森林の大切
さを人々に伝え続けている。

「私たちの強みは、森林の手入れを行う
ことで直接的に森林づくりに貢献でき
るとともに、その実体験を生かして市
民にリアルな声を届けられることです。
普段から森とふれあっているからこそ、
伝えられる言葉があると信じています」

「**団体が大切にしていることは
何ですか?**」

「活動を行う上で、言葉で伝えるだけで
なく、実際に森に入って手作業で間伐
し、その間伐材を使って工作を行うな
ど、一本の木から木工作品になるまで
の流れを体で感じる体験を大切にして
います。また、『ふれあいプロジェクト』
では、ヒノキの間伐材で製作した木琴



ヒノキの間伐材で製作した木琴「ヒノッキン」は子供たちに大人気



森林の大切さを伝える環境教育活動



ヒノキナメコの植菌も森林活動の大事な取り組み



ワークキャンプでは自分でつくった竹の容器でご飯を食べるのも醍醐味の一つ



大人が見守る中で間伐作業。ノコギリで木を切る作業は貴重な体験だ



「みどりの学校」では自ら切った間伐材で工作を楽しむ

ボルダリングボード



「フォレストーズかがわ」は、森林づくり活動で発生した間伐材を多種多様な木工作品に変化させ、子供たちが楽しみながら木とふれあえるきっかけづくりを行っている。その一つが、今夏に製作した「ボルダリングボード」だ。これは、ペイントした木の板にヒノキの間伐材でつくったホールド(掴んだり、足を乗せるための突起)を取り付けた「フォレストーズかがわ」オリジナル作品。県主催のイベントで設置したところ、子供たちに大好評で、ヒノキの感触や香りを体いっぱい感じていたようだ。こうした間伐材利用の新しいアイデアが、次世代の若者を森林にひきつける足掛かりの一つになるのかもしれない。

◀ヒノキの間伐材でホールドづくり

―団体の目指す姿とは？

「現存する自然環境を守り続けるためには、市民の力で健全な森林を維持していくことが必要です。そのためにも、市民の関心を森に向けてもらうことが不可欠だと感じています。私たちの使命は、もっと身近な存在として森に興味を持ってもらえるよう、活動を通じ

て一人でも多くの人に森林の重要性を伝えていくことです。中でも、未来を担う子供たちは大切な存在です。今後、たくさんの子供たちに森を好きになってもらえるよう、楽しい森林体験を提供していきたいと考えています。そして、森林を守り、未来につなげるために、自分たちができることからコツコツと地道に活動していきたいと思っています」

「森は未来からの預かりもの」。これは、団体が掲げる理念の一つだ。この志を胸に、これからも「フォレストーズかがわ」は、森林の未来と市民をつなぐ架け橋としてエネルギーに輝き続けるだろう。

